



第33号

平成21年10月25日発行
発行所
明浄学院高等学校照思会
大阪市阿倍野区文の里3丁目15番7号
電話大阪06(6623)0016

平成二十一年度 総会あいさつ



照思会会長 福本幸子

大阪市内では秋の訪れが遅いように感じておりましたが、いつしか街路樹のこずえも色づいて美しい季節が巡ってまいりました。照思会の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

春から世界的に流行している

新型インフルエンザの感染が国内でも拡大しております。体力！と気力！そして、抵抗力！を味方につけて、皆様どうぞお身体には充分お気をつけ下さい。

さて、まず大切なお知らせがございます。

毎年開催してまいりました「照思会総会」を今年度より、二年毎の開催に変更させていただきます。昨今の少子化による影響で新会員が減少し、通信費用が経費を圧迫し続けていること、この状況はしばらく続くことと予測されること。また、今年度の、総会ご案内状でお知らせさせて

一方ならずお世話になりましたことを、心より感謝し、お礼申し上げます。有難うございました。

四月より、瑠東(るとう)東治校長先生、渡辺雅彦教頭先生がご就任されました。両先生、学校の諸先生方、事務職の方々も、照思会へ変わらぬご尽力を頂いておりますことは、誠に有り難く、感謝申し上げます。最後に、学校行事をお知らせ致します。

いただきましたように、昨年実施しました「今後の総会について」のアンケートの結果に基づき、二年毎の開催に変更させていただきますことになりました。皆様のご理解とご承認を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次回開催は、平成二十二年(照思会八十五周年記念総会)総会場で皆様にお目にかかれまことを役員一同楽しみにしております。お寄せいただきました貴重なご意見を今後の総会に活かしてまいりたいと存じます。アンケートのご協力有難うございました。改めてお礼申し上げます。

尚、会計の「収支決算書」は毎年作成致します。

続いて、今年三月末、照思会に格別なるご尽力を頂きました岡田修校長先生と伊藤和彦教頭先生がご退職されましたのでご報告申し上げます。両先生には



学校長 瑠東 東治

照思会総会開催おめでとうございます

照思会会員のみな様におかれましては、ますますご健勝のことと大慶に存じます。

「照思」のいわれは明治天皇の御歌に因むものであるとか、そして本年は奇しくも今上陛下の在位二十周年祝賀の年。

わたたくしは本年四月一日に赴任をさせて頂き、来年で九十年を迎える本校の伝統と歴史の重みに思いを致すにつけ、先の大戦など幾多の苦難を乗り越えて今日の礎を築かれた、先輩諸師に衷心より敬意を表させて頂きま

す。大正・昭和・平成と、世は移ろい、月去り星は変わっても、明浄直の教えは普遍でございます。

第四代学校長の鈴木甚助先生は「古きを温ねて新しきを知る」とは古今東西に通じた不変の法則と確認したいものです。中略 不易なものほどこまでも不易で押し通し同時に日々新たに日々々に新しきへと、堅実な歩みを以て将来の発展へと進みたいものであります」と仰っております。

構造改革・官から民へ、規制緩和の美名のもと、国民の貴重な共有財産を利権とし、民は民でも特定の民間業者に分け与え、労働力さえ物件費扱いで切り捨

て御免。一億層中流など遠い過去の話で、見るも無様な格差社会へと凋落した我が国にあって、教育の世界にもその余波が波及する今日この頃、鈴木先生のあるお言葉こそ変わることのない真理であると確信する次第でございます。幸いに、八月三十日の総選挙で国民は小泉・竹中の市場原理主義にノーを突きつけました。世界経済が破綻した直後であり、一朝一夕に薔薇色の世界の実現ということはあり得ませんが、人間が人間らしく生きられる公正平等な社会の実現の緒に就くことができたのではと、期待を致すところでございます。まだまだ厳しい社会状況ではございますが、後輩達は、日々明るく華美に走らず真つ直ぐに文武両道に励んでくれております。これも先輩諸師が営々として築かれたDNAのお陰であると、改めて感謝とお礼を申し上げます。

努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。ここに、我々は、日本国憲法の精神にのっとり、我が国の未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図るため、この法律を制定する。当然ながら、この前文の精神はわたたくしたちの教育方針と合致するものであり、加えて本校は、我が国が一番光り輝いた「大正デモクラシー」のさなかに創学された経緯もあり、女性の社会進出の思想を半世紀も前に先取りし、社会に有為たる女性の育成を校是に掲げ、「不易と流行」をモットーとして今日に至っております。

この大切な母校をお預かりしている責任と自覚の涵養に勤め、照思会のみならずのご発展を祈念し、総会開催にあたってのご挨拶と致します。



「九十年の伝統に培われて」



教頭 渡邊 雅彦

平成二十一(二〇〇九)年度
照思会総会の開催を心よりお喜
び申し上げます。

さて、ご存知のように本校は、
まもなく創立九十年を迎えよう
としております。卒業生の皆さ
まも三万五千名を超えて参りま
した。これもひとえに照思会の
みなさまの暖かいご支援のお陰
であることは言うまでもなく、
心より感謝申し上げます。

今回、このような、伝統ある
学校の教頭として四月から着任
いたしました。改めて、その重
責をひしひしと感じておりま
す。経験も不十分で、何分、微
力ではありますが今後も全力で
取組んで参りたいと思えますの
で、引き続き皆さまには、多く
のご指導を賜りますようお願い
申し上げます。

現在、本校では校訓「明く
浄く 直く」のもとに「躰・和
心・グローバル」という三つの
時代に合った要素を取り入れな
がら、その九十年の伝統を現在
に継承しております。

活発なクラブ活動や先生との
交流を通して礼儀など、学ばな
ければならない、躰。和歌を詠
んだり、家隆忌、かるた会など
日本の伝統行事で学ぶ、和心。
英会話を学び、交換留学やオー

ストラリア留学旅行を体験して
学ぶグローバル(国際的)精神。
どれも、新しい女性の姿を目指
す、時代に相応しい教育である
と自負しております。しかし、
その基礎を脈々と流れ、受け継
いでいる考え方は、九十年の間、

常に明浄が求めてきた女性の姿
であり、時代を担う、賢く逞し
い女性の姿そのものにならない
のです。

このような私たちの取組みで
ある、女子高として変らない清
楚な制服、文化的伝統ある学校
行事、新しい国際交流の試みな
どが社会からも評価をいただ
き、今年も新聞で取り上げられ
る機会がありましたので紹介さ
せていただきます。また現在、
在校生のうち、六十名以上の生
徒のみなさんが、本校の卒業生

豪州留学生と交流

明浄学院高生



カップに流し込んだシリコンの
上に菓物の模型を思い思いに並
べる留学生ら

り、明浄学院高での受け入れ
は2回目。今回はサマンサ・
キャンベルさん(16)、ロー
レン・ニルソンさん(同)、
ハンナ・モックさん(同)の
3人が来校。今月17日から27
日までの日程で滞在した。
3人はホストファミリーと
生活を共にしながら、習道や
落語などをテーマにした授業
に参加。学校の創立記念日の
今月23日には校外研修とし

て、食品模型を製造する森野
サンプル(平野区加美北6丁
目)を訪ね、シリコンのソフ
トクリームの上にプラスチック
で作った菓物を並べ、パフ
ェのサンプルを製作した。
モックさんは「とても楽し
かった。本物みたいで食べた
くなる」と満足げ。モックさん
のホストファミリーである
山元恵美子さん(17)は、「一
緒に楽しんで思い出を作りたい」と話していた。
(鶴房香)

食品サンプルづくりなど体験

オーストラリアのマリス
シズクスカレッジの留
学生らがこのほど、私立明
浄学院高(阿倍野区文の里3
丁目)で、日本文化に触れる
授業などに参加した。23日
には校外研修として、食品サ
ンプルづくりにも取り組んだ。
阿校は姉妹校提携を結ん
で、今年で4年目を迎える。
短期で留学生の交換をしてお

4月30日 大阪日日新聞より

家隆忌

遺徳たたえ和歌奉納

明浄学院 若い感性で学習成果



家隆塚の前で和歌を詠む明浄学院高の生徒

入れ、伝統文化を通し
た情操教育に力を注い
でいる。
かつて大阪湾に沈む
夕日の名所だった同地
域。家隆はその絶景を
歌に詠み、夕陽庵を設
けて晩年を過ごした。
「夕陽丘」の地名は夕
陽庵が由来となったと
いう。

式では献茶、献歌、
焼香、祭文、朗詠が厳
かに執り行われた後、
3学年から選ばれた約
60人の生徒や教職員が
詠んだ和歌を披露し、
家隆の功績と遺徳をた
たえた。

50年以上にわたって
継続されている同校の
協力を得て行われてい
る。今後も継続してい
らるえたら」と話してい
る。同校では1年生で
を清掃している夕陽ヶ
「和歌」の授業を取り
た。(鶴房香)

6月30日 大阪日日新聞より



雨ニモマケズ 衣替え

大阪市阿倍野区の私立明浄学院高校
で7日、一足早く夏服での登校が始ま
り、雨にぬれた柏道の緑に、女子生徒の
白いセーラー服が映えた。写真。II。
同高では、5月末までは夏、冬とち
らの制服も着用できる「移行期間」。
この日朝の大気は、小雨まじりの曇
り空で、最低気温は14.3度と平年並
み。3年福地香奈さん(18)は「かわい
いデザインなので夏服は好きだけど、
今日はちょっと肌寒い」と話していた。
大阪管区気象台によると、近畿地方
は8日午後から高気圧に覆われて晴れ
間が広がり、5月中は平年より気温の
高い日が多くなる見込みという。
(浜井孝幸撮影)

5月7日 読売新聞より

のお子様、お孫様などであると
いうことも、学校の伝統教育を
評価いただいている大きな現わ
れであると思えます。これらの
ことは、特筆すべきことであり、
誇るべきことだと考えます。
私たち教職員は、常々そうい

「不易流行」

照思会会員の皆様、お変わり
なくお過ごしでしょうか。今般
第八十三回の総会を開かれまし
こと、また皆様がお元気でこの
会に集まれることお慶び申し上
げます。

照思会の会長様はじめ役員の方
々々、会員の皆様には、日々母
校のためにご尽力、ご支援をい
ただき誠にありがとうございます。

私事ではございますが、平成
二十一年三月に校長職任期を満
了し明浄学院を退職いたしました

岡田 修

う皆様方の思いを胸に頑張らな
ければならないことを理解して
おり、努力するつもりでおりま
すが、何卒、今にも増してご支
援、ご指導をよろしくお願い申
上げます。

た。後任には、人格、見識とも
に優れた瑠東東治校長先生をお
迎えいたしました。瑠東校長先
生は、文部科学省の第一期民間
人校長として和歌山県立有田中
央高等学校に赴任され、進路開
拓をはじめ数々の学校教育の変
革を推進されました。伝統ある
明浄学院高等学校の校長とし
て、その手腕を発揮され学院の
発展に大きく寄与されると確信
いたしております。また、照思
会会長福本様には、故竹上会長
に続き学院の母体である高等学

校同窓会理事として、法人の理事にご就任いただきました。今までの少子化影響だけに止まらず、昨年来の経済不況と、私学を取り巻く厳しい状況は未曾有のものではありませんが、母校を愛される心意気で、この状況を乗り切っていただけることを願っております。

今回照思会会報の発行にあたり、私にとって最後の明浄学院高等学校卒業式での式辞の中から、寄稿させていただきたいと思ひます。

先般の卒業式で、私は二つのことをお話しいたしました。一つは、「過去の真理」を土台とした「前進」、「変革」ということです。

今年早々、オバマ氏が黒人初のアメリカ大統領に就任されました。彼は「チェンジ」をキーワードに大統領選挙を展開してきました。大統領就任演説の中で彼は「世界が変化したのだから、私たちも変化しなければならぬ。挑戦は新たなものかもしれない。だが、私たちの挑戦の成否を左右するのは、昔と変わらぬ勤労と誠実さであり、勇気と公正さであり、忍耐と好奇心であり、忠誠と愛国心である。これが真理だ。この真理が、私たちの歴史を通じて、静かな前進の力となってきた。今、求められているのは、こうした真理に立ち戻ることである。」と述べています。

時を同じくして、アメリカを発端とした金融不況が全世界に波及し、日本においても企業の減収、倒産等、経済面だけでなく、雇用問題をはじめ大きく社会が、今揺れ動いています。このような時代であるがゆえに、これからの世代を担う皆さんは、早急な変革を求めなくてはならず、今まで学んだ経験と知識をもとに、自己と社会をしっかりと見つめ、賢明な判断と行動を心がけて欲しいと話しました。二つめには「不易流行」と言う言葉です。

本校の伝統行事の一つに「芭蕉忌」と「家隆忌」があります。これらは、俳句や短歌を通じて情操教育の一環とするものです。「不易流行」は、その松尾芭蕉の俳句の概念で、芭蕉の俳諧理論を理念化した用語だと言われています。昨今の厳しい社会情勢、不況、この激動の時代を生きていく上で、これも是非心にためてほしい言葉だと私は思っています。

「不易」とは変わらないこと、即ちどんなに世の中が変化し状況が変わっても絶対に変わらないもの、変えてはいけないものという事で、「不変の真理」を意味しています。逆に、「流行」は変わるもの、社会や状況の変化に従ってどんどん変わっていくもの、あるいは変えていかなければならないもの、このことです。「不易流行」は俳諧の言葉だけにどまらず、学問や文化や人間形成にもそのまま当てはまるのではないのでしょうか。人類は誕生以来、日常生活の経験

を通して、「知識・知恵」を獲得し続けてきました。ヘラクレスイトスは「万物は流転する」と言い、方丈記の鴨長明は「ゆく川の流は絶えずして、しかももとの水にあらず」と申しました。これらの名言が示すように、全ての物、森羅万象は時々刻々と変化、「流行」し、「知恵」は絶えず更新されていきます。しかし、その中から私たちの先人達は、「不易」即ち「不変の真理」を見出し続けてきました。その「不易」を基礎として、刻々と「流行」する森羅万象を捉えることにより、新たな「知識」が獲得され、更にその中から「不易」が見出されていきます。

「不易」は「流行」の中にあり、「流行」が「不易」を生み出しているのです。これは単なる周期的な繰り返しのサイクルではなく、回りながら上っていく螺旋階段のように、進化、成長を求める姿勢そのものを表しています。この「不易流行」の螺旋によつて学問や文化が発展してきました。

一人ひとりの人間も「不易」と「流行」の狭間で成長していると言えます。

本校の校訓「明く、淨く、直く」は、人として兼ね備えるべき「普通の真理」です。この「普通の真理」を持つて、人生の中で出会う全てのものや、人に対する深い愛情、生きることの尊さ、命の尊さの自覚と同時に、周りの全ての人によつて自分自身が生かされていると言う敬虔

な心を持ちここの大きさをお話いたしました。また、人は生まれながらにして世界にたつたひとつだけの「きらりと輝く種」を持つていて、その種を人生という土壌に蒔くとき、いつか必ず芽を出し成長します。そして、それはいつの日か人生において大輪の花を咲かせることもお話いたしました。

今、不確実な時代であるがゆえに、明浄学院で育った生徒にこの「不易流行」の言葉がもつ意義を考えてほしいと思っております。

最後になりましたが、私は昭和五十二年の明浄学院高等学校へ奉職いたしました。以来、平成十六年に教頭、平成十八年から前任の西本校長の後を引き継ぎ、明浄学院の第十三代校長に就任いたしました。その間微力ながらも学院の発展に務めさせていただきました。在職期間中、歴代照思会役員の皆様からの暖かいご高配、ご支援を頂き無事三十二年間の明浄学院生活を送らせていただきましたこと心よりお礼申し上げます。照思会会員の皆様方のご多幸とご健康を祈念すると共に、今後とも母校への変わらぬご支援をお願いし、照思会会報に寄せる言葉とさせていただきます。

思えば、中学校バレーボール部顧問の先生へ、密かな憧れを抱いていた中、高校二年の春、担当の体育教師との出会いによつて、私は、長きに渡る教職への第一歩を踏み出しました

スポーツを通じ、全身で生徒に関わる師の姿を目の当たりにし、一生の仕事として自分も同じ道を進もうと、決意したのを鮮明に覚えています。初心と情熱だけは忘れることなく一貫性のある指導を心掛けてきました。その間、勇気や感動を生徒達から貰い、嬉しい涙をどれだけ流したことか……。そして別れの時には、人目もはばからず号泣したことも……。懐かしく思い出されます。

バレーボール部の指導は、人が変わったのかと思われる程、厳しく、赴任以来続き、教え子達も二百数十名となりました。

「上手くなれと願いを込めて打つボール受ける両手に迷い粉砕」



平成十八年五月第五十回家郷忌献歌

体育館の床には、汗と共に、そんな願いが染み込んでいます。初めての担任、そして最初の卒業生を送り出したのが、体育

「感謝の気持を込めて」

前教頭 伊藤 和彦

館竣工の昭和四十九年二月。第一体育館初の学校行事が、昭和四十八年度の卒業式でした。あれから三十六年の歳月を経て、今年三月に、思い出深い体育館での離任式を終えました。

この道を進み、本校での三十八年間に悔い無し。「教職に就いて本当に良かったなあ」としみじみ感じています。

今は、お世話になった教職員、保護者、生徒、卒業生の皆様方への感謝の気持でいっぱい、心より御礼を申し上げます。皆様のご多幸と本学院・照思会の発展を祈念いたしております。



香港での一年間を振りかえって

七十期生 川 上 祥 子

初めまして。七十期生の川上祥子と申します。現在、香港の日系企業で勤務しており、ちょうど一年三ヶ月が経ちました。家族や大阪から離れて暮らす事、未経験の仕事、入院、ホームシックと初めての事づくしの一年間で、最近やっと少しずつ香港で暮らしている実感が湧いてきた気がします。

ものでした。転職活動をしながらも、学んできたことや経験をどう仕事に結びつけて行けばいいのかわからない自分に落ち込み、履歴書の年齢欄に焦る日々でした。連続して不採用通知を受け取った時には、仕事を辞めて編入をしたことを後悔したこともあります。

現在の職場から香港勤務が採用の条件と来たとき、香港で働き、暮らして行く自信はあまりありませんでした。普段から香港人の友人達をみて香港社会の競争の激しさを知っているだけに、自分にとって香港は「旅行先」であって決して生活がで

きる場所とは思えなかったのです。でも、自分の社会人としての基礎を作っていただいた人生最初の職場と同グループの企業であること、そして日本を含めた世界中にある勤務地のなかから「香港勤務」が条件になっていることを考えると、「香港に行かないといけないんだな」という気持ちになったのを覚えています。

現実主義の香港人の友人達から、物事の判断基準が「好きか嫌いか」の私はよく叱られます。確かに「なんとなく」香港で仕事を始めてしまったことを後悔することも少なくありません。でも「今日もまた香港に負けた

」と家に帰った瞬間に涙が止まらなくなる日があっても、今日まで自分の香港生活を支えているのは「(いろいろあっても)香港が好き」と思う気持ちと、自分が楽しいと思うことを追いかけてきた結果、今ここで暮らしているからではないか、と思います。迷っているように見える道でも自分が好きだと思えることを追いかけて歩き続けていけば、その道は間違っていない、と自信を持てるようになったこと、それがこの一年間の香港生活で得られたことです。



香港生活二年目になってもまだ「日本の常識は香港の非常識」なことに戸惑わされる事も多いですが、一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。



吹奏楽部です

吹奏楽部部长 福地 香奈

照思会の皆様こんにちは。いつも私たちの活動を応援していただきありがとうございます。二学期も始まり私たち吹奏楽部は、毎日元気良く練習に励んでいます。吹奏楽部には現在、約百七十名の部員がおり、マーチング活動とコンサート活動の両立を目指して頑張っています。

今年、大阪国際交流センターでの「ふれあいコンサート」を皮切りに、「三千人の吹奏楽」「たそがれコンサート」などに出演させていただきました。部員全員が技術面でも精神面でも大きく成長することができました。しかし、そんな私たちの前に大きな壁が立ちました。夏休みに再び流行の兆しをみせたため、私たちも練習の予定変更を余儀なくされ、「大阪府吹奏楽コンクール」招待演奏の辞退をはじめ、合宿の時間短縮など、練習時間が大幅に削られてしまいました。それでも皆が心を一つにして練習に励み「関西吹奏楽コンクール」での招待演奏を無事に終えることができました。昨年、三年連続出場を果たした吹奏楽コンクールはお休みなで、今年もマーチングバンド全国大会を大きな目標に悔いの残らない演奏、演技ができるよう、今まで以上に頑張っています。



秋日傘 孫の参観 畦道を

「秋 草」 三十五期生 郷田 青光